

令和7年度 学校評価(年度末)

令和7年12月実施

【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)						
						4	3	2	1			
一 確 かな 学 力 の 定 着 ・ 向 上	①確かな学力の定着 向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようと努力している。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	B	◇教職員、児童、保護者の肯定率が100%であるが、単元テストの正答率80%以上の学年は1学年のみである。どの学級においても、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、教職員一人一人が指導方法の改善に努めたり宿題の内容等を工夫したりしているものの、その成果が単元テストの結果に十分に反映されていない状況が見られる。 ◆引き続き、丁寧な見取りと個に応じた指導、ICT等を活用した個別最適な学びの充実に努める。さらに、定期的に既習内容を復習する機会を設け、学習内容の確実な定着を図る。また、誤答の解き直し等を行い、「分かる・できる」感覚を味わわせ、学習内容や学習方法の定着につなげる。 ◆今後も、校内検定(算数、漢字)を実施し、目標に向かって粘り強く学習に取り組もうとする態度や意欲を育てる。	教職員アンケート3-①②	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
					児童アンケート⑤⑥⑦	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%			
					保護者アンケート⑩	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%			
					肯定率平均→	100.0%						
	②基本的な学習習慣を確立する。	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力が身に付いている。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇教職員全員が肯定的に評価している。朝学習の時間では、それぞれの学級で個に応じた指導に努めている。また、金曜日の朝活動は、全校で新聞を読む時間とし、多様な文章表現に触れさせながら語彙力や表現力の向上に努めた。チャレンジタイム(全校話合いやファミリー班活動、句会等)や学校行事、地域との交流活動等を通して、自分の考えを表現したり、友達の話聞いて感想を交流したりすることができた。 ◆授業では引き続き、児童の学ぶ意欲を高めるような工夫や、思考を促すような発問の工夫に努める。 ◆語彙力の向上に向け、様々な表現に触れる機会を増やす。他校とのオンライン交流活動等を取り入れながら、同学年の友達と対話する機会を増やし、相手意識を持たせながら自分の言葉で表現する力を伸ばす。	教職員アンケート3-⑦	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
					肯定率平均→	100.0%						
					ICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を高めたり、成績処理を効率よく行ったりしている。 ※教職員・児童の80%以上が肯定	A	◇教職員、児童ともに肯定率は100%である。デジタル教科書、エイリスのテストや検定、ミライシード等を活用した学習を進めてきた成果である。しかし、教職員の4評価は50%から向上しておらず、効果的な活用には課題が残る。 ◆引き続き、学習のめあての達成に向けてICT活用事例に関する研修を行い、教師のICT機器等の効果的な活用力を向上させる。	教職員アンケート3-③	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
								児童アンケート⑧	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
								肯定率平均→	100.0%			
	②基本的な学習習慣を確立する。	宿題を含む家庭学習について、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	A	◇教職員、児童ともに肯定率は100%であるが、保護者の肯定率は50%である。さらに、4評価は保護者で12.5%、児童は33.3%と低く、家庭学習習慣の定着について十分達成できているとはいえない。 ◆手引き等で家庭学習の取り組み方を示すとともに、学習記録カードやタブレットの記録機能を活用して家庭での学習状況を可視化することで、学校と家庭との協力体制を構築する。 ◆学級だよりや懇談会等で家庭学習の方法を紹介し、保護者が家庭で支援しやすい環境を整えることで、家庭での学習習慣定着の後押しをする。	教職員アンケート3-⑤	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%			
					児童アンケート⑪	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%			
					保護者アンケート③④	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%			
					肯定率平均→	83.3%						
学校運営協議会所見					①「基礎学力を身に付けさせるための適切な指導」において、テスト結果などにより前期A評価からB評価へと変化している。引き続き、児童の課題設定や効果的な指導ができるように努めてほしい。 ②「基本的な学習習慣」については、前期と比較し保護者アンケート結果が若干向上したものの、依然として評価は低いと、他の事例を参考にするなどして更なる対応が求められる。 ③先生方の熱心な指導により、児童もよく頑張っていると思う。いろいろな学習方法によって、楽しみながら学べるとよい。 ④単元テストの平均正答率において、一つの学年が70ポイントにも届いていないのが気になる。 ⑤参観日などで授業を見ていると、積極的に授業に参加しているように思う。人数が少ないので、発表しないといけないという気持ちになるのか。 ⑥家庭学習を紙(ノート、プリント)でしていると何をやっているか分かるが、タブレットだと何をしているか分からない。	学校の 対応	①児童一人ひとりのつまずきに応じた課題設定を行い、「分かった」「できた」という実感を伴った指導の工夫を行う。また、基礎的基本的な学力の定着と向上に向け、組織的に取り組んでいく。 ②他校の好事例や効果的な取組を参考にしつつ、家庭学習の定着を促すための働き掛けや、児童が主体的に学習に取り組める環境づくりを充実させる。また、学校・家庭・地域が連携し、基本的な学習習慣の確立に向けて継続的に取り組んでいく。 ③引き続き、指導方法の工夫に努める。 ④児童の理解状況に応じた指導の工夫や、基礎的内容の反復練習の充実を図り、学力の確実な定着に向けて取り組んでいく。 ⑤少人数ではあるが授業規律や学習のルールを身に付けさせ、自分の意見を堂々と発表できる児童の育成に努める。 ⑥タブレットを利用した家庭学習においては、学習履歴の確認方法や児童がどのような学習に取り組んでいるかを家庭でも把握しやすくするための情報提供の在り方について検討を進めていく。					

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
二 豊かな心や 挑戦を楽しむ 態度の育成	③生徒指導の徹底と 健全育成に努める。	教育相談体制を確立し、児童理解に基づいた、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	A	◇教職員、保護者、地域は、100%の肯定率である。特に、地域においては4評価が92.3%と非常に高くなっており、学校の日々の取組について、肯定的な理解が得られている。 ◇児童の肯定率95.8%であるが、4.2%の2評価を真摯に受け止めなければならない。個別のアンケートを見てみると、「困ったことや悩みがあるとき、先生たちに相談できますか。」の項目の評価が2となっている。子供たちにとって話しやすい雰囲気づくりに努める必要がある。 ◇定期的に実施している教育相談に加え、様々な機会を捉えて児童の思いを把握するように努めている。これらの活動が、適切な児童理解につながっていると考えられる。 ◆引き続き積極的な児童理解の場の確保と教職員間での情報共有に努める。 ◆学校行事や授業の中での児童の様子を学校だよりやホームページ等で伝えるとともに家庭や地域からの情報収集に努め、学校・家庭・地域が一体となって児童を見守るようにする。	教職員アンケート8-③	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					児童アンケート ①⑩⑫⑬	62.5%	33.3%	4.2%	0.0%
					保護者アンケート⑧⑨⑪⑬⑮	65.0%	35.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート⑥	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	99.0%			
					子どもを見つめる会	研修会の時に毎回実施			
	④地域を活用した体験 活動を充実する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇教職員・保護者は100%の肯定率だが、地域97.4%となっている。個々のアンケート結果を見ると、地域の方は、もっと地域人材の活用や地域とのつながりを望んでいる。 ◇学習発表会において総合的な学習の時間や生活科での学びの発表を行った。その準備を進める中で児童は、自分たちの生活が地域と深くつながっていることを再確認することができたように思う。 ◆児童は地域への関心が高まっている。地域コーディネーターを活用し、更に地域とのつながりを深め、地域の達人、名人から学ぶ機会を設定する。	教職員アンケート 3-⑪6-④11-⑤	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート⑪⑫	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート④⑤⑧	74.4%	23.1%	2.6%	0.0%
					肯定率平均→	99.1%			
⑤『つながり合う』『挑戦を楽しむ』『元気な心と体』をキーワードにした、学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、粘り強く頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格を目指し、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習等を奨励する。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇教職員、児童、保護者ともに肯定回答が100%であり、評価指標による評価はAである。2学期の校内漢字・算数検定では、どちらも自分の目標を達成できた児童が多かった。1学期と同じように児童の4評価は83.3%と高く、多くの児童が自分の頑張りや成長を実感していることが分かる。 ◆校内漢字・算数検定のみならずさまざまな機会を捉えて、子供たちの目標に向かって挑戦しようとする態度を育てる。より心を合わせて取り組ませるために、検定週間や月間を設定し、ポスター掲示をしたり学級通信等で家庭に知らせたりする。	教職員アンケート3-②⑤⑧	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	
				児童アンケート⑥	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	
				保護者アンケート⑮	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
				肯定率平均→	100.0%				
	児童・教職員が互いのことを尊重し、認め合う関係づくりをする。また、感謝の言葉を発し合ったり、「ありがとうの木」活動の充実を図ったりして、自己肯定感を高める。 ※児童・教職員の100%が肯定	A	◇児童、教職員ともにアンケートは100%の肯定率であった。児童においては、少人数の特色を生かした縦割り班活動を通じて、互いを思いやる言葉を発する姿が見られた。 ◇人権・同和教育参観日では、坂本助産師さんの講演を聴くことで、自他の生命の尊重だけではなく保護者への感謝の気持ちを言葉にすることで参加していただいた地域の方にも温かな気持ちを届けることができた。 ◇「ありがとうの木」活動を通し、肯定的なメッセージをもらうことで自己肯定感を高めることができた。 ◆児童、教職員ともに、思いやりの気持ちを持ち優しさに包まれた安心した学校生活が送れるよう、機会あるごとに声掛けを行う。 ◆「ありがとうの木」活動を継続する。 ◆研修を深めたり外部機関とつながったりすることで教職員自身が自己肯定感を高め、互いを尊重したり認め合ったりする雰囲気を醸成する。	教職員アンケート1-③⑤	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
				児童アンケート④	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
				肯定率平均→	100.0%				
学校運営協議会所見	①前期と比較し、評価値及び肯定率ともに向上している。今後も、児童の健全な育成を促進する取組が期待される。 ②少人数ならではのアットホームな雰囲気を、とてもほほえましく感じている。のんびりほんわかだけでなく、目標に向かう頑張り、思いやりや優しい気持ち等、心が安定し豊かに成長することを願っている。 ③相談しやすい雰囲気に努めていただきたい。 ④もちつき等、公民館や地域の行事に参加することはとても良い。 ⑤地域学習をしたり地域の行事に参加したりすると良い。敬老会の作文発表等も検討してはどうか。また、秋祭りの祭り唄や太鼓など地域の伝承にも取り組み、豊かな心を持ってほしい。	学校の 対応	①今後もさまざまな観点から、組織的計画的に児童の健全育成を目指す。 ②のびのびとした雰囲気を大切にしながら、目標に向かって努力する姿勢や、思いやりや優しさといった豊かな心が育まれるよう、日々の教育活動を充実させていく。 ③日常的なコミュニケーションの充実や相談しやすい場づくりに努め、安心して相談できる関係づくりに努める。 ④地域行事に積極的に参加するように児童や家庭に呼び掛ける。 ⑤地域の自然や文化、産業に関する学習を教育課程に組み入れ、積極的に地域から学ぶことのできる教育環境を整える。地域コーディネーターとも密に連絡を取り合いながら、個々の具体的な地域行事への参加についても前向きに検討する。						

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上 ※朝運動を週2回実施する。	A	◇新体力テストの結果から見える全体的傾向として、柔軟性や走力・持久力に課題が残るが、体育の授業や放課後の陸上・マラソン練習等において、柔軟運動や体幹トレーニングを取り入れ、基礎体力の向上に努めた。その結果として、苦手意識の高い相撲大会の取組においても、体力向上の成果が見られた。 ◆引き続き、「やればできる」という前向きな気持ちで取り組めるよう、児童の頑張りを適切に評価していく。今後も体育の授業や放課後のマラソン練習等を通して、柔軟運動や走の動きづくり、体幹トレーニングを行うなどして、体力や運動能力の向上に努める。	不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低 70%			
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりするなどして、全校児童が登校する日を増やす。 ※年間の全校児童出席日数が150日(約75%)以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇教職員、保護者、地域の肯定率は95.8%である。保護者の肯定率は、83.3%である。家庭生活での基本的生活習慣の乱れが、学校生活にも影響していることもあるため、特に気になる児童に関しては保護者と連携を密にし児童の実態に応じて個別の指導を行う必要がある。 ◇学校保健委員会では、学校運営協議会の方々や学校歯科医、町保健師に学校保健活動に関する子供たちの状況の説明や、学校保健活動に関して基本的生活習慣など学校・家庭・地域でできる手立てについて、それぞれ考えた。今後も、連携・協力して課題に取り組める体制づくりを行う必要がある。 ◆基本的な生活習慣の確立を図るために、保健委員会が主体的に啓発活動などの取組を行い、児童同士の学び合いの中から改善意識を持たせる。 ◆基本的な生活習慣の定着に向けた学校の取組について、保健だよりや学校だより、ホームページ等を通して家庭に情報を発信する。 ◆支援の必要な児童に関しては、学校・家庭の連携を深め、必要に応じて保護者と面談を行うなど児童・保護者に寄り添い問題解決を図る。	教職員アンケート1-②7-①②③④	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
					児童アンケート③⑬	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート⑥⑦⑫	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%
					地域アンケート①②⑦	74.4%	25.6%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	95.8%			
	学校運営協議会所見	①前期と比較し、肯定率が若干低下している。引き続き、家庭との情報共有の強化が求められる。 ②マラソン大会では、皆が自己ベストを目指し、最後まで一生懸命頑張る姿に感動した。競い合うことも大切だが、自分と闘おうとする姿が素晴らしい。これからも、個々に応じた体力づくりに励んでほしい。 ③基本的な生活習慣の確立、定着は簡単そうでなかなか難しいが、先生方の働き掛けはすばらしい。 ④逆上がりや一輪車などの基本的な運動能力は、子供たちに身に付いているか。	学校の対応	①児童が生活習慣をしっかり身に付けられるように、学級だよりや保健だより、連絡帳などを通じて、連携強化に努める。 ②それぞれの児童の体力や特性に応じた運動機会を充実させ、健康的な体づくりや粘り強く取り組む態度が育まれるように取り組んでいく。 ③学校と家庭との連携を深め、家庭に寄り添いながら、基本的生活習慣の定着を図る。 ④体育の授業を中心に、児童一人ひとりの習得状況に応じた支援や練習機会の充実を図り、無理なく楽しみながら技能が身に付くよう努めていく。	全校児童出席日数	120日/150日(80%) ※12/25現在			
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意を持って対応するよう努める。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇教職員、保護者の肯定率は100%であるが、地域の肯定率は98.1%であった。全体的にはA評価であるものの、1.9%の意見は真摯に受け止め、改善を図る必要がある。個別のアンケートを見てみると、「地域の教育力の活用」で2の評価がついていた。総合的な学習の時間等に、区長さんや公民館主事さんなど地域の方の協力を得ながら教育活動を進めることができたが、さらに地域との交流が促進されるような方策を考えていく必要がある。 ◆学校運営協議会や地域コーディネーターに働き掛け、学校の地域貢献のニーズについて情報を収集し検討する。 ◆ふれあい集会など、行事によっては引き続き地域の施設を活用する。 ◆学期に1回程度、地域で行われているサロンに出向き、児童と地域の方との交流活動を実施する。 ◆今後も学校だよりやホームページを使って、情報発信に努める。	教職員アンケート11-①③	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート ⑩⑭⑰⑱	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート③④⑤⑧	75.0%	23.1%	1.9%	0.0%
					肯定率平均→	99.4%			
	学校運営協議会所見	①前期と比較し、数値は横ばいとなっている。「開かれた学校づくり」において、学校の取組に対して保護者や地域から高い評価を得ていると考える。今後も、積極的に保護者や地域住民の意見を反映した学校運営が期待される。 ②マラソン大会や学習発表会等、防災無線での周知の回数をもう少し増やしてほしい。 ③地域起こし協力隊員を活用したら良いのではないか。	学校の対応	①ホームページや学校だよりを通して学校運営に関する情報発信を充実させたり、保護者や地域住民の意見を伺う機会を拡大させたりして、開かれた学校づくりを推進していく。 ②1～2回だった防災無線の放送を、行事の前の週、3日前、1日前というふうに3～4回程度に増やすようにする。 ③地域起こし協力隊の方も、貴重な地域人材として連携をとっていく。					

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
五 指導力の向上 ・ 教職員の資質	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇教職員の肯定率は100%であった。校内研修は、計画に沿って行っている。それぞれの教員が、自己研修に積極的に取り組み、自己研鑽に励んでいる。また、相互研修ネットワーク(町内の各校の研修会にオンラインで参加するシステム)も活用し、校外研修にも積極的に参加し、指導力の向上を図っている。 ◆計画を見直しながら、本校の課題や時代の要請に沿った内容の研修に努める。また、相互研修ネットワークを活用したり、各種オンライン・オンデマンド研修に積極的に参加したりして、指導力を高める。出張等での学びを共有し、チームとしての指導力向上を目指す。	教職員アンケート10-①②③④	45.8%	54.2%	0.0%	0.0%
					肯定率→	100.0%			
	学校運営協議会所見	①教員の指導力スキルアップのため、児童の課題を的確に把握し、更なる学力向上に努めてほしい。 ②無理のない範囲で体調に配慮しながら頑張してほしい。	学校の対応	①授業改善のための校内研修の充実や、学習状況の分析を基にした指導方法の工夫を進め、教員の指導力向上に努める。児童の学力が着実に伸びるよう、組織的に取り組んでいく。 ②教職員一人ひとりが体調管理に努めながら、より実践的な研修を進める。					
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	A	◇教職員、児童、保護者、地域ともに、100%の肯定率である。これまで、地震や津波、火災などの避難訓練を実施してきた。特に地震については、予告なしや余震ありなどさまざまな想定で行ってきた。また、疾病者を発見した場合などの緊急事態にどのように行動するかを可視化したカード(救急時アクションカード)を教職員の名札の中に常備し、校内安全体制の構築に努めている。 ◆地震・津波、火災、不審者、その他緊急事態など様々な状況を想定した避難訓練やシミュレーション等を実施する。日頃から、警察や駐在さんとも連絡を取り合い、緊急事態に備える。 ◆地域と連携した訓練の実施、危機管理マニュアルの見直しと周知により、教職員一人一人の対応力強化を図る。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨	54.2%	45.8%	0.0%	0.0%
					児童アンケート⑱	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート⑫	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート②⑥⑨	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	100.0%			
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇教職員の肯定率は100%である。火気・施設等の確認、安全点検も実施できた。 ◆今後も、毎日の火気・施設確認を徹底し、月1回の安全点検を欠かすことなく実施する。また、校舎の老朽化や暴風雨による破損箇所の早期発見や速やかな修繕に努め安心・安全な学校を目指す。	教職員アンケート7-⑤	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
					肯定率→	100.0%			
安全点検					・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施				
	学校運営協議会所見	①私たちの予想を超える自然災害が毎年のように全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしている。とりわけ発生確率がますます高まっている南海トラフ地震では、愛南町において最大17mの大津波が発生すると予想され、児童への防災学習はきわめて重要と考える。アンケート結果の更なる向上が期待される。 ②避難訓練やシミュレーション等の実施により、いろいろな場面での対応を習得しているようで頼もしい。地域と連携した訓練の実施が、何度かあればと思う。 ③地域には倒壊しそうな家屋がいくつかある。登下校時の安全確保はできているか。	学校の対応	①避難訓練や地域と連携した防災学習を継続して実施しており、児童が具体的な行動を理解し実践できるよう努めている。今後も、より実効性の高い防災教育の在り方を検討しながら、児童・保護者・地域が一体となって防災意識を高められるよう取り組んでいく。 ②地域と相談しながら、夜間の避難訓練や避難所設置訓練などにも積極的に取り組んでいく。 ③危険が想定される場所について最新の状況を把握し、必要に応じて通学路の見直しや注意喚起を行うなど、児童の安全確保に努めていく。					
七 特別支援教育の充実	学校運営協議会所見	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解の下、個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	B	◇教職員の肯定率は83.3%に下がっており、個別の指導計画の十分な活用には至っていない。校内委員会においては、児童の進学に向けて、学級や学校での支援について、全教職員で共通理解を図ることができた。 ◆個別の指導計画を基に、教職員間で話し合って情報を共有し、組織的な支援を行う。また、特別支援学級の児童については、本人や保護者の意向を踏まえ、中学校とも連携を図りながら、中学校進学を見据えた指導・支援を引き続き行う。 ◆校内研修会の中で、各学期ごとに特別支援教育校内委員会を開く。 ◆児童の困り感を軽減できるよう個に応じた指導法の工夫改善に努め、児童のよさを伸ばすようにする。	教職員アンケート12-①②	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
					肯定率→	83.3%			
	学校運営協議会所見	①引き続き、特別支援教育における適切な教育環境の確保と、支援を必要とする児童へのより適切な教育が求められる。個別の指導計画を基に、児童の困り感を軽減する対策の実施を期待する。 ②学習発表会では、配慮の必要な児童に対して他の児童が気を配ったりフォローしたりしている姿が見られた。 ③特別支援学級の児童の成長が感じられた。	学校の対応	①校内での情報共有や専門機関との連携を図りながら、児童が安心して学習に取り組める環境づくりを進めていく。また、個別的教育支援計画や個別の指導計画の活用について校内外での研修を充実させ、どの教員もしっかり活用できるようにし、支援を必要とする児童への教育の充実を図る。 ②全ての児童が思いやりの気持ちを持ち、安心して学習に取り組むことのできる環境づくりに努める。 ③少人数の良さを活かし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を進めていく。					